

**2023年度 公益社団法人日本建築家協会東北支部
宮城地域会(JIA宮城)**

活動報告書



目次

P2

■JIA 宮城地域会 地域会長挨拶：齋藤 健太郎

P3, 4

■アーキテクツウィーク 2023：出井 弘介

P5, 6

■「あずまや」学生設計コンペ：鈴木 大助

P7

■みやぎボイス 2023：阿部 元希

P8

■ボウリング大会&ビアパーティ：鈴木 大助

P9

■建築と子ども教育委員会：渋谷 セツコ

P10

■2023 年度見学会：櫻井 一弥

P11

■仙台市避難所安全確認支援活動：齋藤 健太郎

■仙台市高断熱住宅普及促進協議会：吉田 和人

P12

■JIA 新人賞受賞講演会：高橋 哲朗

■仙台市空き家総合相談会：樋口 芳文

P13

■マンション管理支援ネットワーク：大友 彰

■JIA 宮城地域会 地域会長挨拶

JIA 宮城 地域会長
齋藤 健太郎



日頃より JIA 宮城地域会の活動にご協力していただきありがとうございます。

新型コロナウイルスの流行拡大・世界各地での紛争・記録的な物価高・様々な要素が家計・企業を直撃しています。ここ数年で生活様式も変わってしまいました。皆で集まる場を創り、コミュニケーションを図り・様々なアイディアを出しながら、建築家・JIA関係者にできることを確認していきたいと思いい活動してまいりました。

今年度の宮城地域会は、昨年度の事業を継承するとともに、他団体との連携協力と事業共同化なども強化していき、さらに異業種の方々との交流を深めてまいります。そして、正会員・協力会・準会員の仲間を広く募り、正会員と協力会の積極的な意見交換を図りながら、建築のより良い提案、次世代を担う若手建築関係者や学生・子どもたちへの人材育成も進めたいと考えました。

また、分け隔てなくベテラン・若手問わず誰にでも参加しやすい環境を整え、みんなで心地よく、夢や希望がある会になるように考えました。

■地域に関わる公益的活動。

- ・「アーキテツウィーク」の開催。
→JIA 活動・JIA 会員の市民への周知、他団体との共同活動を積極的に行いました。
- ・まちづくり・復興支援の継続。
行政・教育機関・市民の方々との連携。
- ・歴史的建造物の調査、保存再生への研究・提案。
- ・建築相談への対応。・災害対策支援

■会員同士の連携

- ・会員同士の連携を強化
→発注者支援業務の強化を具体化が不十分
→技術セミナーを通し協力会の企業製品の把握。

■会員同士の交流、会員の増強。

- ・建築見学会・建築サロン・建築ツアーの開催。
→秋保サミットの開催。
- ・「ボーリング&ビアパーティ」「忘新年会」などの開催。
- ・趣味の集まりである、部会活動の活性化
→正会員・協力会の密な仲間が増えます。

■建築関係団体の交流・連携の他、異業種団体との交流・連携も活性化する。

- ・建築三団体のより強力な関係を築く。
- ・建築関係団体との交流・連携。
- ・異業種団体との交流。市民の方々に建築家の役割を知ってもらう。
→AW や建築展の開催。

■将来を担う若手の育成。

- ・子どもたちへ建築の魅力を伝える。体験型イベントの開催。
→木育などを取り入れてみました。
- ・学生コンペや若手建築家コンペを開催。JIA 活動への参加を促す
→学生コンペの開催

■改正建築基準法・脱炭素社会へ向けて(2050)・BIM(ICT)の活用

■地域会運営の予算(実質)に合った活動。

- ◎JIA 宮城地域会総会 (4/19)
新人賞受賞講演会では、講師として畑友洋さんをお招きしました。
- ◎JIA 東北支部総会 (5/12)
- ◎令和5年度東北公共建築設計懇談会 (6/16)
- ◎JIA 宮城ボーリング大会 (7/27)



※大盛り上りのボーリング大会

- ◎JIA 宮城 巡回建築展の開催 (9/15~17)
- ◎JIA 宮城 秋保サミットの開催 (10/28)



※歴代の地域会長をお招きしての交流会

- ◎JIA 全国大会 常滑 (11/9~11)
- ◎アーキテツウィーク 2023 (11/15~18)



※沢山の方々にお越しいただいた AW



- ◎JIA 支部新年会 (2/2)
- ◎趣味の集まりである、部会活動の活性化。
ゴルフ部・山岳部・釣り・音楽など



※宮事協との初合同ゴルフコンペ ※山岳部始動

- ◎その他
- ・定期的な役員会・執行部会議の開催
- ・宮城県 CLT 等普及推進協議会
- ・仙台市高断熱住宅普及促進協議会
- ・仙台市避難所等安全確認支援担当者会議
- ・ひとやさ推進協議会
- ・宮事協、宮士会の例会などに参加
- ・土業連絡会
- ・東北 PPP 推進協議会
などの活動に参加致しました。

■アーキテツウィーク 2023
「みやぎの建築家」

JIA 宮城 AW 会議長
出井 弘介



日 時：2023 年 11 月 15 日(水)～11 月 18 日(土)
場 所：せんだいメディアテーク
1 F オープンスクエア
参加者：650 名

JIA 宮城地域会では皆様の協力のもと、2015 年度より広く市民の皆様に建築やデザインのすばらしさを身近に感じてもらう目的で「アーキテツウィーク」を企画し、様々なプログラムを実施、多くの反響を頂いて参りました。

宮城地域会の主要事業と位置付けられた本事業は今回で 9 回目の開催となります。予算規模を拡大し 4 日間のプログラムでの開催となりました。沢山の方に足を運んで頂けるような魅力あるプログラムの企画を目指し取り組むと共に、昨年以上に幅広い分野とのコラボレーションを目指して開催しました。各担当が一丸となり、それぞれのプログラムが持つテーマを生かしたプログラムが提案され、多くの来場者にお越し頂くことが出来ました。皆様の多大なご協力を頂いたことで今年度のアーキテツウィークを成功させることが出来たと思っております。

来年度以降も、今回見えてきた問題点や改善点などを再考し、効率化を図りつつもコンパクトな運営方法で取り組むとともに、JIA を更に世間に認知していただくため、また、JIA 会員自体が興味を示し、楽しんで参加できるコンテンツを充実すべく、邁進して参りたいと思っております。

■アーキテツウィーク 2022 開催プログラム
1 日目

・協力会技術セミナースペシャルバージョン

JIA 東北支部法人協力会会員の持つ技術によって、建築家と共に未来を考えてディスカッションを行いました。

・メイン企画基調講演 part1
前田圭介氏講演会「まちづくりと建築家の役割」

建築家の前田圭介氏をお招きして、仙台駅東口の作品見学と合わせて講演を行いました。



・「まちづくりシンポジウム 2023」
ー仙台都心まちづくり団体の連携についてー

新たな時代に期待される質の高い建築とまちづくりの理念を探究し、活動の一つとして「これからの建築とまちづくり」というテーマで 7 回シンポジウムを開催してきました。今回は、青葉通・仙台駅東・定禅寺通・仙台市中心商店街活性化協議会の 4 団体のまちづくりの活動を題材として様々な視点から仙台市の都心まちづくりのビジョンや専門家の役割、そして連携などについて議論しました。

2 日目

・福山弘氏講演会
「CLT から製材まで一木の素材を建築に活かすー」

構造家の福山弘氏をお招きして、CLT などの木造建築について講演を行いました。



・学生設計コンペ公開審査
「あづまや」学生設計アイデアコンペ
一人のあつまる場所をデザインするー

錦ヶ丘ヒルサイドモール内に以前足湯として使用していた東屋と遊具が設置してある広場があります。その場所の活性化、インスタポイントになる広場づくりを目的として、東屋などのデザインを宮城県で建築を学ぶ学生に広く募集しました。



・建築学生テクニカルセミナー2023

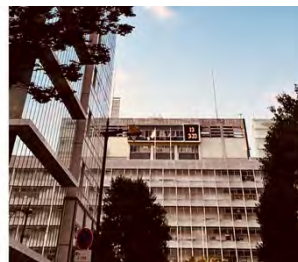
東北地方で建築を学ぶ学生さんを対象として、JIA 東北支部協力会企業が提供する技術や材料を通して交流を行うとともに、建築を成り立たせるテクニカルな知識を学んでいただきました。JIA 東北建築学生賞受賞作に対する技術提案ならびにブース展示を実施しました。

3 日目

・フォト俳句コンテスト「建築を詠め！」公開審査

建築写真とそれを「お題」にした俳句・川柳を募集します。イケメン建築、推し建築、色気のある外観から、端正なインテリアまで、写真と俳句・川柳で思いの丈を表現しました。

時刻
別れを
惜しむ
差し
迫る



最優秀賞：佐藤克枝 様
審査員：JIA 宮城地域会 地域会長 齋藤健太郎
俳人協会宮城県支部支部長 高宮義治

- ・メイン企画基調講演 part2
MARU。architecture 講演会
「重なりとしての建築」

建築家の高野氏及び森田氏をお招きして、講演会を行いました。



- ・MBB スペシャルライブ

2007 年仙台で結成されたジャズコンボ。定禅寺ストリートフェスティバルなど県内外のイベントに参加し、スタンダード JAZZ からポップスやロックまで、MBB 流のアレンジで楽しく演奏しました。今年は新メンバーも加わり、一層パワーアップしたステージをお届けすることが出来ました。

4 日目

- ・IUW2023 七ヶ浜 シンポジウム

IUW2023 は、宮城県七ヶ浜町を対象とし、「3. 11」の貴重な体験・教訓を踏まえ、現状の壁を打破する創造的な提案を行う、大学・まち・専門家の協働による大学間ワークショップです。AW では参加する大学研究室による成果発表と、シンポジウムを行いました。

- ・建築空間とダンス

建築現場で発生する「音」を集めてリズム感溢れる音楽を作成。また、建築に使用されるマテリアルを使用した衣装を着用して建築の世界観を演出。これらをヒップホップで融合させたダンスを披露しました。



連日(展示)

- ・フォト俳句コンテスト「建築を詠め！」

建築写真とそれを「お題」にした俳句・川柳を募集します。イケメン建築、推し建築、色気のある外観から、端正なインテリアまで、写真と俳句・川柳で思いの丈を表現しました。

- ・和紙・桐格子展示

素材を使用した壁紙の展示をさせていただきます。日本国土に群がる楮和紙に技法を加え、壁画・タペストリーなど室内空間を彩る提案をいたしました。また、桐材を手貼り加工した壁紙をご紹介させて頂き、日本伝統の素材についてもっと身近に感じて頂きたいと思います。

- ・みやぎの建築家作品展

敷地ロケーションや要望、様々な条件下から導き出されたアイデアが詰まった展示会です。JIA 宮城の建築家がどのように解を導き出し、建築をつくり上げているのかご覧ください。

- ・IUW2023 七ヶ浜

IUW2023 は、宮城県七ヶ浜町を対象とし、「3. 11」の貴重体験・教訓を踏まえ、現状の壁を打破する創造的な提案を行う、大学・まち・専門家の協働による大学間ワークショップです。AW では参加する大学研究室による成果発表を展示しました。

ワークショップ(11 月 16 日～11 月 18 日)

- ・木育ワークショップ



宮城県には森林資源が豊富にあり、近年、県産材の建築への利用が増加傾向にあるが、いまだ市民には県産材の利用や認識が浸透しきれていません。そこで今回、木育ワークショップを行い、県産材を見て、触れて、木の素晴らしさを味わってもらうため、子供を対象とし、県産材の木片、木板などを利用したものづくり、ゲームを企画しました。

■あずまや学生コンペ 「人があつまる場所をデザインする」

JIA 宮城 事務局長
鈴木 大助



日 時：2023 年 11 月 16 日（木）15：30～17：00
場 所：せんだいメディアテーク
1F オープンスクエア
参加者：60 名

アーキテクツウィークの期間中に開催されたあづまや学生コンペは、県内の大学 8 チームが参加しました。今回は錦ヶ丘ヒルサイドモールにある以前足湯だったエリアを対象に人が集まる場所のアイデアを競って頂きました。審査委員長は JIA 宮城より佐藤充氏、審査員はヒルサイドモール館長佐藤英彰氏、イベントプランナー竹内しのぶ氏、JIA 宮城地域会長齋藤健太郎氏が担当し、各チームは模型とプレゼンデータを元に 5 分と限られた時間の中でしっかりとプレゼンテーションを行って頂きました。ヒルサイドモール館長から非常に高い評価を頂き、何らかの形で実現に向けて動き出せればと考えております。

審査結果及び各参加者は以下の通りです。

最優秀賞

7 番、東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻
板谷 廉、藤野 正希

優秀賞

3 番、東北学院大学 工学部 環境建設工学科
中津川 歩夢、松尾 大雅、大野 倅生
佐藤 圭介、渡部 礼基
4 番、東北学院大学大学院
工学研究科環境建設工学専攻
佐藤 光洋
東北学院大学 工学部 環境建設工学科
安部 遼太、櫻田 悠成、東海林 祐斗

参加者

1 番、宮城大学 事業構想学群価値創造デザイン学類
相澤 佑斗、渡邊 彩加
2 番、宮城学院女子大学
生活科学部 生活文化デザイン学科
加藤 愛佳、工藤 悠夏
5 番、東北学院大学大学院 工学部環境建設工学科
佐々木 裕人
東北学院大学 工学部 環境建設工学科
星 幸太郎、丸山 祐乃
6 番、宮城大学 事業構想学群価値創造デザイン学類
及川 和怜、村上 颯太、山崎 侃之介
8 番、東北工業大学 建築学部建築学科
笈原 佳太、及川 悠也



あずまやコンペ講評

審査委員長 佐藤 充

7 番 敷地コンテキストを丁寧に読み解き建築の形態へと昇華した優れた作品である。繊細な部材で構成された面が折り重なることによる生じる陰影は美しく、さらに多様な佇み方を想起させる平面構成が秀逸である。

3 番 プレゼンテーションシートを見ただけ心躍る優れた作品である。自由な曲線によって様々なイメージを喚起するオブジェが点在するフォトジェニックなランドスケープデザインは、実現性が高く優れた作品である。

4 番 周囲の山並みとの呼応とそこでの多様な佇み方を丁寧にデザインし、それらを統合した有機的な形態は非常に説得力があり、共感を得る優れた作品である。設計者の造形力は、提案された他の作品の中でも秀逸である。

1 番 ユニークな屋根架構が特徴的なランドマーク性の高い提案である。あずまやでの佇みかたは、至って普通であることが悔やまれる。作品の特徴である屋根架構が空間体験の豊かさに作用するとお良かった。

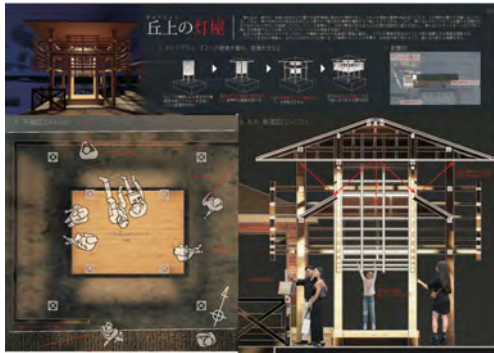
2 番 サイズの異なるボックスが連なり展望テラスとしての機能を有する本作品は、敷地のポテンシャルを顕在化するという点で優れている。ボックスの向きを変え自由な形態にすることでさらにアクティビティを誘発するだろう。

5 番 種が飛来し根を張りファニチャーとなるというストーリーの設定から導き出された遊具としては優れた作品であるが、日差しや雨から人々を守り自由に佇むことができるあずまやとしての機能がやや弱い点が残念である。

6 番 L 型の構造がサイズと角度を変えて反復する空間は、図面よりもずっと魅力的であり、高さのスタディを重ねるとさらに魅力的な作品になると感じた。プレゼンテーションシートの表現力をさらに磨くとなお良かった。

8 番 デザインにおける初期設定がややネガティブであることが、作品のイメージに影を落としてる点が残念である。社会に対し、明るい眼差しで未来を提示することが我々に求められていることではないだろうか。

参加作品一覧 (番号順)



1 番 丘上の灯屋



5 番 はえる空根



2 番 のぼって、おりて、まじわって。



6 番 山麓の反応



3 番 ココカラ ～感性の箱庭～



7 番 織りなし重なる屋根、切り取る風景



4 番 あずまや 野やま



8 番 和傘

■みやぎボイス 2023

～震災復興を100年の
パースペクティブで考える～
JIA 宮城 復興支援委員長
阿部 元希



日 時：2023年9月2日（土）11：00～18：30
場 所：せんだいメディアテーク 1階オープンスク
エア、リモート併用
講 師：下記参照
<https://www.jia-tohoku.org/archives/4162>
参加者：延べ230名（現地+オンライン）

3年振りの通常開催となった今回は天候にも恵まれ、これまで同様にリモートとリアル混在した、さらに傍聴者も会場とオンライン視聴という環境にて、復興まちづくり関連のみならず、様々な社会的課題に精力的に関わられている各分野の皆様にお集まり頂き、多様な意見交換と示唆に富む知見を共有することができました。

関東大震災からの100年を議論の起点として、事前復興、住宅復興、災害と人権、変容と継続性、公助共助等に関する多角的かつ熱気ある議論は、みやぎボイスならではの混沌とした空気感を醸成しながらも、ラウンドテーブルで発せられるそれぞれの現場と当事者からの生の声には、視座や手法こそ違いますが、復興まちづくりを契機とした『普遍的な社会課題』の解決へ至る期待感がありました。

またこれから、みやぎボイスで議論した内容にも関連したシンポジウム、9/23『ふくしまボイス（日本災害復興学会主催）』、11/10『JIA 建築家大会2023 災害対策会議シンポジウム』（JIA 主催）が開催されました。

今後はみやぎボイス2023 報告書をまとめ、皆様にご報告すると共に、これからの復興まちづくりのアーカイブとなるよう広く発信して参ります。また、今後もみやぎボイス連絡協議会は、復興まちづくりでの協働のプラットフォームとしての充実を図っていきたく考えております。

お力添え賜りました会員や関係者の皆様、誠にありがとうございました。今後とも温かいご支援を宜しくお願い致します。



■テーブルA開催状況



■テーブルC開催状況



■テーブルD開催状況



■テーブルE開催状況



■フライヤー

■第35回ボウリング大会&ビアパーティ

JIA 宮城 フェローシップ委員長
鈴木 大助



日 時：2023 年 7 月 27 日（木）17：30～21：00
場 所：（ボウリング）ボウルサンシャイン仙台店
（表彰式）森のパルク
参加者：約 100 名

毎年恒例の JIA 宮城ボウリング大会&ビアパーティは 35 回を向かえ交流の長寿企画として大いに盛り上がっています。今回はボウリング大会 69 名、ビアパーティー90 名プラスダンスチームを迎えてさらにパワーアップ！ボウリング大会はハンデを若干変更し若者への参加を促したり、ダンスパフォーマンスで多世代交流を図りました。



優勝 チャンネルオリジナル・サンゲツチーム



2 位 ヤマキ工業・田島ルーフィングチーム



3 位 トキワ産業・リンナイ・
元旦ビューティ工業チーム



■建築と子ども教育委員会活動報告

JIA 宮城

建築と子ども教育委員会委員長
渋谷 セツコ



●台原小学校3年生総合学習支援「堤町まちかど博物館／堤焼佐大ギャラリー見学ワークショップ 台原の達人になろう！」

日時：2023年7月4日（火）9：00～12：00

場所：堤町まちかど博物館

指導：佐藤明彦・佐藤吉夫（堤人形作家）、渋谷セツコ（JIA）、永野ますみ（JIA）、細田洋子（A&C）

対象：小学3年生 106名

協力：佐大商店、つつみのおひなっこや、建築と子供たちネットワーク仙台

＜杜の都景観重要建造物等＞である六連の登り窯や古い堤焼、堤人形等を見学して、昔の仙台の人々の暮らしと地域を知る活動を行いました。子供たちは9グループに分かれて、六連の登り窯を見学、堤人形展示室、堤焼展示室（佐大ギャラリー）を順に見学し、各所での説明は合計9回行いました。



●「堤人形干支絵付けワークショップ」

日時：2023年10月1日（日）10：00～12：00

場所：つつみのおひなっこや＜堤人形体験工房＞

参加者：JIA3名、小学校教師2名、仙台市1名、一般1名、NP02名／合計9名

指導：佐藤明彦（堤人形作家）

協力：つつみのおひなっこや、建築と子供たちネットワーク仙台

＜杜の都景観重要建造物等＞に指定されている堤焼登り窯とともに市民に守られてきた伝統工芸の堤人形。今回は体験工房で行いました。



●「親子で楽しむ紙漉きワークショップ」

日時：2023年10月14日（土）

9：30～14：00

場所：手すき和紙工房潮紙

指導：塚原英男（潮紙代表）



講師から歴史や製法のお話を聞いて、工房や材料となるトロアオイの畑を見学しました。最後は実際にコースター作りを楽しんだりして和紙に親しみました。ワークショップ終了後には、谷川沿いの川音亭（かわどてい）で手打ちそばを楽しみ自由解散になりました。



■2023 年度見学会

JIA 宮城 事業委員長
櫻井 一弥



第1回「大熊町立 学び舎 ゆめの森」

日 時：2023 年 9 月 9 日（土）10：00～12：00
14：00～16：00

住 所：福島県双葉郡大熊町大川原南平 2019-1

説 明：アーキシップスタジオ 飯田善彦氏
鈴木弘人設計事務所 鈴木弘二氏

参加者：185 名



第2回「みやぎ登米農業協同組合本店・なかだ支店」

日 時：2023 年 12 月 16 日（土）13：30～14：30

住 所：登米市中田町石森字駒牽 265 番地の 1

説 明：関・空間設計 三浦高史氏

参加者：30 名



第3回「アーバンネット仙台中央ビル」

日 時：2023 年 12 月 22 日（金）15：00～16：30

住 所：仙台市青葉区中央 4-4-19

説 明：NTT 都市開発株式会社 東北支店

星加氏、藤澤氏

参加者：15 名



第4回「国立療養所東北新生園社会交流公園内
慰霊施設（三重塔）」

日 時：2024 年 2 月 16 日（金）13：30～15：00

住 所：登米市迫町新田字上葉ノ木沢 1-1

説 明：氏家建築設計 氏家清一氏

平野組

伊藤政隆氏、田中竹弘氏

2023 年度は、計 4 回の見学会を実施できました。
それぞれ有意義かつ実りのある事業ができたと思
います。ご参加・ご協力いただきました皆様に、こ
の場を借りてお礼申し上げます。
誠にありがとうございました。

■仙台市避難所安全確認支援活動

JIA 宮城 地域会長
齋藤 健太郎



日 時：2023 年 6 月 14 日（木）13：30～15：00
場 所：仙台市役所 上杉分庁舎 2 階第一会議室

「第 1 回仙台市避難所等安全確認支援担当者会議」

- (1) 連絡体制の確認等
- (2) 仙台市総合防災訓練防災関係機関等連携実動訓練について
- (3) 判定士と施設管理者の顔の見える関係の構築について

その他、意見交換。

日 時：2023 年 9 月 7 日（木）
場 所：JIA 宮城事務局（東北支部内）

「令和 5 年度被災建築物応急危険度判定連絡訓練」

宮城県とともに JIA 宮城も参加し、毎年 9 月頃に実施される被災建築物応急危険度判定の全国連絡訓練にあわせて、県内の特定行政庁及び各建築団体を対象とした宮城県内の判定連絡訓練を実施しました。

日 時：2023 年 9 月 12（火）
場 所：JIA 宮城事務局（東北支部内）

『応急危険度判定士と施設管理者の顔の見える関係づくり』について、仙台市と JIA 執行部と班長にて打合せを行いました。

仙台市からの依頼で担当者と施設管理者の顔合わせを実施することとなりました。
※後日避難所となる施設の図面もお預かりしました。

地震災害時における避難所開設後、安全確認支援を円滑に実施するため、各担当者は直接学校と連絡をとり、直接避難施設を確認し、施設担当者との顔を合わせることで、双方とも理解を深めることができました。

日 時：2023 年 11 月 16 日（木）13：30～15：30
場 所：仙台市役所 上杉分庁舎 2 階第一会議室

「第 2 回仙台市避難所等安全確認支援担当者会議」

各団体の施設管理者の顔の見える関係づくりの進捗状況を確認しました。

その他

- ・判定士ファイルと安全支援携帯カードの更新
- ・令和 5 年度宮城県被災建築物応急危険度判定士技術者講習会のご案内
- ・各担当の更新作業

現在、JIA 宮城は仙台市と「地震災害時における避難所等の応急危険度判定に関する協定」を締結して宮城野区管轄となっております。
2 名 1 チームにて発災 24 時間以内に原則状況報告する事となっておりますが、マンパワーが不足した状況です。（添付担当者表参照）
引き続き会員に協力お願いしていきます。

■仙台市高断熱住宅普及促進協議会

JIA 宮城 資格制度委員会委員長
吉田 和人



日 時：2023 年 5 月 15 日（月）～
場 所：MS ビル二日町 仙台市環境局 4 階会議室
担 当：早坂陽 齋藤健太郎 吉田和人
参加者：37 名

令和 5 年 5 月 15 日（月）に、仙台市で高断熱住宅の普及促進に向けて「仙台市高断熱住宅普及促進協議会」の設立総会が開催されて協議会が設立されました。以下が会員になります。

■会員

住まいと環境 東北フォーラム
一般社団法人宮城県建築士会
公益社団法人日本建築家協会東北支部宮城地域会
一般社団法人みやぎ中小建設業協会
一般社団法人宮城県優良住宅協会
一般社団法人仙台建設業協会
一般社団法人宮城県建築士事務所協会
一般社団法人新木造住宅技術研究協議会
一般社団法人日本木造住宅産業協会 東北支部
仙台市健康福祉局高齢企画課
仙台市健康福祉局健康政策課
仙台市都市整備局住宅政策課
仙台市都市整備局建築指導課
仙台市環境局地球温暖化対策推進課

■オブザーバー

宮城県土木部住宅課
宮城県環境生活部再生可能エネルギー室

JIA 宮城地域会は「住まい手向け普及促進検討部会」に配属され、住まい手向けに高断熱住宅が普及するためにはどのようにしたら良いかを議論しています。

初年度のため、協議会ではロゴマークを決めるために東北工業大学に依頼し作成し、部会としては住宅の断熱性能や高断熱住宅に対するアンケートを実施したりしました。今後、SNS やホームページで普及活動をしていくようです。

第 1 回高断熱住宅普及促進協議会 R5. 7. 10（月）
第 1 回住まい手向け普及促進検討部会 R5. 9. 1（金）
第 2 回住まい手向け普及促進検討部会 R5. 11. 20（月）
第 3 回住まい手向け普及促進検討部会 R6. 1. 16（火）
第 2 回高断熱住宅普及促進協議会 R6. 3. 15（金）予定

写真：東北工業大学生からの協議会ロゴのプレゼン発表の様子です。「ぬく杜」に決定。



■JIA 新人賞受賞講演会

JIA 宮城 事務次長
高橋 哲朗



日 時：2023 年 4 月 19 日（水）15：00～17：00
場 所：せんだいメディアテークスタジオシアター
講 師：畑友洋氏
参加者：120 名

2022 年度 JIA 新人賞を受賞された 畑友洋建築設計事務所の畑友洋氏をお招きし「空間から認識へ」をテーマに受賞作品の畑氏の自邸である「甲陽園の家」をはじめ、これまでの作品を紹介して頂きました。

令和 5 年 3 月よりマスク着用も個人判断となり、2 年ぶりに WEB 配信のない完全対面での講演となりました。

まずは、神戸市という斜面が多い都市に事務所を構え、斜面と格闘した作品を紹介して頂きました。「元斜面の家」では断絶していた斜面を復元するような、斜面に寄り添う住宅とし、「篠崎の家」では斜面と人間の作った人工物が複雑に入り組んでいる敷地であり、ここでは構造的アプローチにより実現させ、「舞多聞の家」では施工的アプローチから、斜面に浮遊するような作品になっており、さらに宮大工の技術も使用し作品を完成させていました。計画・構造・施工様々な制約の中でどのようにアプローチをしていけば実現することができるのか、手探りで格闘していた様子が伺い知ることができました。

局所の中で最大化させることの限界を感じていたところに、茶室「大徳寺 真珠庵 庭玉軒」での空間の無限の広がりを感じ、その後、街の遺伝子と建物の中と街との繋がり・広がり意識を始め、西本願寺の飛雲閣を参照にし、空間としては粒を持ちながら粒どうしがぶつかりあったような住宅を計画しており、街の遺伝子と響きあう住宅でした。

続いては、住宅とのスケールを合わせた、野球場・体育館とも響きあう木立のような公園施設でした。ディテール部分についても人間の認識を意識し、柱を柱と認識させないように、金物・土台を見せない手法を紹介して頂きました。

最後は、JIA 新人賞の作品である「甲陽園の家」でした。敷地へのアプローチの写真を紹介された時は、本当にこの場所に建築が可能なのかと思いましたが話を聞いていくうちに、これまでの崖地での経験を活かし、アーチ構造に着目したことに深く感心しました。その後も街と響きあうことによって、物理的な空間の枠を超えて、住まいを街へ拡張していく考え方から、多方的な街に立つ建物として、ピカソのキュビズムのような空間とファサードを持つ、建築を作り上げました。アーチ構造の構造手法についても大変興味深く講演を聞くことが出来ました。



■マンション管理基礎セミナー 仙台市空き家総合相談会

JIA 宮城 建築相談委員長
樋口 芳文



日 時：2023 年度
場 所：仙台市役所上杉分庁舎など

建築相談委員会では本年度も引き続き、仙台市と協定を結んでいる仙台市空き家総合相談会へ、令和 5 年 9 月 30 日、令和 6 年 3 月 23 日の 2 回、相談員として参加しました。毎年、空き家総合相談会は全 6 回開催しています。相談件数は近年コロナ禍によりかなり減少傾向にありましたが、本年度は例年通りに戻り、定員いっぱいとなっています。相談内容は様々あり、解決には時間がかかるものも多くありますが、早めの相談と対策により、少しでも空き家問題の解決に向けた手助けをできればと思います活動しております。

また本年度も、令和 6 年 2 月 1 日、空家等対策における専門家として仙台市より依頼があり、管理不全な空き家の現地調査を行いました。今回、現地調査を行った空き家は近頃まで使用していたらしいのですが、管理が行き届いていないため、崩壊寸前のケースであった。現状から何らかの対策を行うのはほぼ不可能と思われた。よって率直な意見をまとめ、意見書として提出しました。

その他、定期的開催される仙台市空き家対策ネットワーク会議及び住宅活用検討部会へ参加もしております。ネットワーク会議は、仙台市が主催し、不動産、司法などの各専門分野の専門家があつまり、仙台市の空き家の状況や空き家対応状況、空き家総合相談会の内容及び今後の対応などを協議しております。

空き家問題は、相続問題から接道問題まで様々な要因によって生じており、その解決には時間がかかるものや、現行法では解決不可能なケースもあるため、空き家は今後も増えていくと予想されます。よって建築相談委員会では仙台市の要請に従い、空き家総合相談会、管理不全な空き家の現地調査及び空き家対策ネットワーク会議へ参加し、その活動を通じて、地域貢献をしていきたいと思っております。



■マンション管理支援
ネットワークせんだいみやぎ

JIA 宮城 建築相談委員
大友 彰



今年度の活動を報告します。『全体会議』を年度初めの5月にネットワークを構成する運営団体と構成団体が一堂に会して前年度の活動報告、今年度の活動計画を発表し、ミニ講演や意見交換を行った。

『マンション管理基礎セミナー』

ネットワークの設立目的は「マンションの適正な運営と維持管理」を区分所有者が健全に運営する為の支援である。第1回目から管理基礎セミナーは開催され20年目に入るが、セミナー参加者は理事長や理事に任命された方が殆どで、理事会運営や大規模修繕に多くの方が興味を持たれている。給排水設備更新も関心が高く2～3年間隔でテーマに取上げている。繰り返す理由は役員が輪番制のマンションが多く新規役員の勉強のためでもある。今年度8月の第1回目は1部「適正な理事会運営」、2部は「管理費の滞納金」対策と改修方法について。11月の第2回目は1部「給排水管の改修工事」、2部は「マンションの防災を考える」の講演と並行して個別相談会（大友担当）が8月に続き今回も実施された。

『マンションの再生・終活セミナー』主催：仙台市
1部：高経年マンションに「いま」必要な取組み。2部：マンションの終活～建替え・敷地売却～、3部：パネルディスカッションでマンションの寿命を考える。をテーマにして1, 2部の講演者と建替えの組合代表者及び宮城県マンション管理士会、再開発コーディネーター、大友が加わる。最初に敷地売却・建替えを行う組合代表者から2回目の大規模修繕工事後の2017年（築40年目）から再生検討委員会を立上げ昨年合意に至った経緯が紹介された。次にパネリスト毎に「マンションの寿命」についての考えを話した。短い時間での討論だったが、マンションも人間の体と同じで、定期的な健康診断や人間ドックで精密な検査を受け、予防医学的な健康管理が建物の長寿命化にとって大切であるとの結論であった。又終活を円滑にするためには「顔の見える近所づきあい」の関係をつくるコミュニティー形成が大切で、合意形成が出来る環境整備を日常からしておくことが重要であるとの結論で本日のセミナーが終了した。



第2回マンション基礎セミナー（2023. 11. 11）